

モディ政権への期待から持続的な成長へ 個人消費、インフラ投資、企業業績が株価の上昇ドライバーに

2019年6月28日

お伝えしたいポイント

- モディ首相の再選を受けて株式市場は最高値を更新
- インド株式市場の上昇が今後も見込めると考える3つのポイント
①個人消費の回復、②インフラ投資の拡大、③企業業績の回復

モディ首相の再選を受けて株式市場は最高値を更新

2019年のインド株式市場は堅調に推移しています。2月にはインド治安部隊に対するテロを受けて隣国パキスタンとの緊張が高まったことや、5月には米中貿易摩擦の長期化懸念を背景とした世界的な株安により下落する局面もありましたが、モディ首相再選への期待からその都度反発しました。下院総選挙でモディ首相の再選が確定すると6月には史上最高値を更新しました。

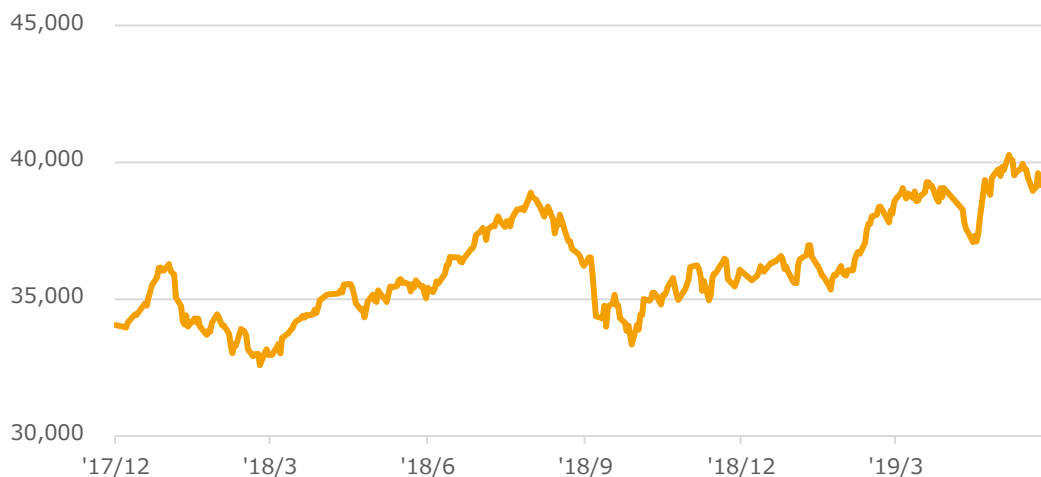
選挙を通過したことで、今後5年間は政局リスクを気にせず改革路線を維持できることは、インド株式市場をみる上で好材料だと考えています。

7月5日の政府予算案発表を控えていることや世界情勢への不透明感から、直近はやや様子見色の強い相場展開が続いていますが、インド株式市場は引き続き上昇が見込める市場だと考えています。

今後も株価上昇が見込めると考える理由について次ページで解説いたします。

インドSENSEX指数の推移

(2017年12月29日～2019年6月26日)



(出所) ブルームバーグ

インド株式市場の上昇が今後も見込めると考える3つのポイント

モディ政権への期待により堅調に推移しているインド株式市場ですが、期待だけでなくファンダメンタルズの回復が見込めます。原油動向をはじめ世界情勢に対する不透明感は上値抑制要因ですが、インド国内の要因としては、主に以下の3つが株式市場の上昇ドライバーになると見込んでいます。

■ 個人消費の回復

選挙前は先行き不透明感から個人消費が落ち込み、経済活動全体が停滞していましたが、その反動が見込めると考えています。また、農作物の発育に影響するモンスーンの降雨量について、2019年は平年並みと予報されており、大きな波乱要因にはならないと考えています。2018年は、原油高やインド・ルピー安が消費に悪影響を与えていましたが、足元はともに落ち着いており、インフレ率も低下しています。インド準備銀行もインフレ率低下を受け、政策金利の引き下げに転じており、このことも消費動向に好影響を与えると考えています。

■ インフラ投資の拡大

7月5日に政府予算案が発表される予定ですが、その内容から政策の重点が理解できると考えています。インド人民党は選挙公約に「ビジネスのしやすさ」を改善すると掲げています。特に地方経済の活性化に取り組むと考えており、鉄道、道路、下水、電力などへのインフラ（社会基盤）投資が盛り込まれるとみられています。

■ 企業業績の回復

銀行を中心に企業業績が回復すると考えています。ここ数年、不良債権問題がインド経済の成長の障害となっており、金融機関が大規模プロジェクトへの資金供給に及び腰になるなどの影響もみられました。しかし、金融機関の貸倒引当金の計上も進み、銀行の財務体質に改善がみられます。一部ノンバンクなどで問題が残っていると言われてはいますが、金融機関全体としては資産内容の健全化が進んでいると認識しています。

銀行の財務体質改善および貸出体力の回復は、銀行自身の業績回復が見込めるだけでなく、経済全体への波及が期待できます。さらに上記のように個人消費、インフラ投資の加速も企業業績への支援材料になると期待しています。

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。